

## 学部留学生を対象とする言語文化〈日本語〉

村上京子

2005年度言語文化〈日本語〉の科目及び受講者数は以下の通りであった。

### 前期

期	対象	内容	時間	担当者	学習者数
1期（1年前期）	文系	文章表現	月3限	秋山	7
		口頭表現	木3限	西田	7
	理系	文章表現	火2限	村上	4
		口頭表現	木2限	魚住	4
	工学（国）	口頭表現	月2限	西田	9
		文章表現	水2限	魚住	9
工学（私）	文章表現	月2限	村上	8	
	口頭表現	水2限	鷺見	8	
2期（1年後期）	文系	文章表現	木3限	村上	7
		口頭表現	金2限	秋山	7
	理系	文章表現	火2限	村上	4
		口頭表現	木2限	魚住	4
	工学（国）	口頭表現	月2限	西田	10
		文章表現	水1限	魚住	9
工学（私）	文章表現	月2限	秋山	8	
	口頭表現	水1限	鷺見	8	
3期（2年前期）	文系	文章表現	火1限	鹿島	12
4期（2年後期）	文系	文章表現	木1限	浮葉	12

### クラス

文系：文学部・教育学部・法学部・経済学部・情報文化学部社会システム情報学科

理系：医学部・理学部・農学部・情報文化学部自然情報学科

工学（国）：工学部（国費留学生・政府派遣留学生）

工学（私）：工学部（私費留学生・日韓理工系学部生）

### 授業報告

#### 1年前期

文系クラス：文章表現（担当：秋山 豊）

授業のねらい：読む力、書く力の練習。脱国家的な

地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げる。テーマについての理解を深める過程で読む練習、書く練習をする。最終目標は、共通テーマに精通することである。

授業の内容と活動：

◎共通テーマ：格差と成果主義

	テーマの理解	言語技能の重点的練習			
		巨視	微視	産出	受容
1	戦後日本社会の富裕層 ・戦前 ・戦後：高度成長時代 ・バブル崩壊後	読む	精読	書く： 要旨を短文で	読む
2					
3					

4	現代日本社会の格差	読む	精読	書く： 要旨・意見を短文で	読む
5	・「一億総中流」社会の終焉				
6	・雇用形態の変化				
7	・「機会不平等社会」と「階層社会」				
8	成果主義	聞く／読む	速読：	書く／話す：	聞く／読む
9	・多国籍企業（中国企業）の例		大意／選択／	賛否両論を文章	
10	・成果主義の功罪：事例1		マッチング	で	
11	・成果主義の功罪：事例2				
12	・揺らぐ成果主義				
13	（まとめ：レポート作成をめざして）	－	－	書く／話す：	－
14				レポート構成の	
15				検討及び校正	

評価：授業への参加度，タスクシート，レポート  
教室活動での留意点：

- ① 一つのテーマについて理解を深めることのみを目的とする。
- ② 理解のための相互交渉への積極的な参加をお互いに心掛ける。
- ③ 授業に積極的に参加し，随時の課題をこなしていけば，レポートの作成につながるように工夫する。

#### 文系クラス：口頭表現（担当：西田瑞生）

授業のねらい：大学という環境において日本語の使用能力を高める，特に，大学で日本語ネイティブと同じクラスで講義を聞くための基礎的な力をつけるために，ノートの取り方と内容を短くまとめて理解する方法を学ぶ。また，日常生活においてもわかりやすい説明ができるような能力を養う。

授業内容：

- ・講義のテープや社会問題などの解説のテープを聞いて，ノートを構造的にとる練習をした。
- ・ノートをとるためのポイントとして「キーワードを聞き取る」「記号を使う」「短く書く」「箇条書き」「ナンバリング」「ラベリング」などを扱った。
- ・わかりやすいノートの取り方と話し方の練習（グルーピングや順序だった説明など）の一環として，料理店のメニューや交通案内などをグループに分かれて考え，作成した。
- ・また，口頭表現と文章表現の違いに注目できるよう，目上の人をお願いをするさいに，口頭でお願いする文章と e-mail でお願いする文章を作り，比較した。
- ・まとめとして2つの発表を行った。1つは，店で会計の時にもらうレシートがどのような内容を含んでいるのかについて，いくつかのグループに分かれ，

グルーピングなどを考え，発表した。もう1つは，それぞれ自分の視聴したい映画についてインターネットなどで調べ，クラスメートに発表しておもしろさを伝えるという課題を与え，授業日程の最後にクラスメートにもっとも支持された映画を視聴した。

#### 理系クラス：文章表現（担当：村上京子）

授業のねらい：大学生活で必要な基本的な日本語運用能力のうち特に文章表現能力を磨くことを目指す。文章理解および論理的な文章を書くことを学習する。

授業の内容と活動：

- ・依頼のメールの書き方：本の貸し出し，アポイントをとる，提出期限の延期など
- ・資料を読み，意見を言う，要点をまとめて書く
- ・説明の文章の書き方：コミュニケーション・ギャップのあるタスクでお互いの文章表現について検討し，改善を話し合う
- ・レポートの書き方：論文で使われる表現と話し言葉の違い，定義の仕方，引用の仕方，要約文の書き方，レポートの構成など
- ・レポートの作成と発表
- ・15回の授業を通して，書き言葉表現に慣れるために「クリティカル進化論」という話し言葉で書かれた文章を書き言葉に直すことと，できるだけ多くの文章を読むことをめざして，授業以外に小説等を読んで日誌につける課題を与えた。

評価：授業への参加度，タスクシート，レポート，試験工夫・反省：できるだけ学習者主導で学習活動を構成し，学習者自身が自分の問題に気づき，今後レポート等を作成する際に自らモニターできる能力をつけ

るように心がけた。クラス人数が少なかったため、ペアの組み合わせや活動が固定しがちであったため、クイズやゲーム、コミュニケーション・ギャップのあるタスクを工夫した。1週間の教室外の活動を日誌につけて提出させたが、4名のうち2名は数冊の本を読みそのあらすじを書いてきたが、2名は大学での課題が精一杯でその課題図書について書くのがやっとであった。多読を目的にしていたが、学習者の個人差を考えると、全員に課すことは困難であることがわかった。

### 理系クラス：口頭表現（担当：魚住友子）

授業のねらい：大学の勉学に必要な日本語運用能力のうち、特に口頭能力を強化する。高度な聴解能力および情報をまとめて伝達する能力、コミュニケーション能力の向上をめざす。ポイントを整理して論理的に考えを述べる能力を養う。

授業内容：

視聴覚材料を用いて情報を取り伝達する練習や、ノートテキング、ディスカッション、ポイントを整理して話す練習、口頭発表などを行う。

#### (1) ビデオの視聴とディスカッション

ニュース、教育番組、ドラマなどのビデオを見て、内容を理解し、情報を取る練習、聞き取った内容をまとめて伝える練習をする。また、ビデオの内容や関連する内容について、自分の考えをまとめてディスカッションを行う。意見の述べ方・表現などについても学ぶ。

#### (2) ノートテキング

講義を聞くための練習として、ノートテキングの仕方を学ぶ。名詞止めの練習も行う。

#### (3) ポイントを整理して話す練習

情報、意見を論理的で分かりやすく伝えるために、列挙、原因理由、比較対照などの文について、表現・構成を学び、ポイントを整理した話し方を練習する。発表し、相互批評を行う。

#### (4) 口頭発表

・毎回1人が自分でテーマを決めて発表。ポイントを整理して話すことを課題とし、相互批評を行う。発表者は、発表原稿を提出する。フィードバック後、発表内容をテープに吹き込み直し提出する。他の学生は、メモをもとに発表内容の簡単な要約とそれについての意見を提出する。

・レジュメの書き方も学ぶ。

#### (5) その他・・・会話練習

大学生活で直面するさまざまな問題への対処の表現について意見交換し、練習する。

評価：期末試験(筆記、会話、及び口頭発表)、小テスト、発表・宿題・課題などの平常点、授業への参加態度、出席状況

工夫・反省：ポイントを整理して話すということが、なかなか身に付かない学生もいたが、他の人の発表を聞いたり、相互批評をすることで、大半の学生は力をつけていったと思う。しかし、各自が選んだ毎回の口頭発表の内容が、あまり深みのあるものになっていなかったのが少し残念である。

### 工学系国費クラス：文章表現（担当：魚住友子）

授業のねらい：大学の勉学に必要な日本語運用能力のうち、特に文章表現能力を強化する。読解能力やレポートを書くために必要な論理的な文章を書くための基礎力を養成する。日本社会・日本文化・科学技術に関する問題を扱った資料等を読んだり、それに対する自分の考えをまとめる練習を通して、他の授業などで役に立つ文章表現能力の向上をはかる。

授業内容：

資料の読解とともに、要約、意見、ポイントを整理して書く作文練習等を中心に行う。

#### (1) 資料の読解

資料（新聞、日本語教材 etc.）を全員で読んで内容を理解し（ワークシート使用）、意見交換を行う。その後、要約および意見を書く。

#### (2) 論理的文章を書くための基礎技術

- ・文体、原稿用紙の書き方、句読点の打ち方の練習
- ・要約練習
- ・ポイントを整理して書く練習

#### (3) 新聞記事の発表（多読・レポートへの試みとして）

インターネットで各自興味のある新聞記事を探し、ネット上の読解支援システムを利用して読み、要約と意見を発表する。また、レジュメの書き方も学ぶ。

#### (4) その他

講義理解、大学生活のための基礎知識として、以下も行う。

- ・板書文字の読み方
- ・インターネットの読解支援システムの紹介

評価：レポート（授業で扱ったテーマに関連して各自好きな記事1本を読み、要約・意見を書く）とその発表（レポート内容の発表、レジュメ提出）、小テスト、宿題・課題などの平常点、授業への参加態度、出席状況

工夫・反省：授業や発表した作文などの相互批評を通じて、ポイントを整理することに少しずつ慣れたのではないかと思う。非漢字圏の学生にとっては生の新聞記事を自力で読むことは大変なため、今年度も前年度同様、インターネットの読解支援システムの利用を奨励し、負担軽減を図った。作文などの間違い訂正については、教師が指摘し学生が自己訂正する方式をとるものは一部に限り、前年度より学生の負担軽減を図った。しかし、力の弱い学生の中には、なお、負担感を感じる者もいたようである。

#### 工学系国費クラス：口頭表現（担当：西田瑞生）

授業のねらい：大学という環境において日本語の使用能力を高める、特に、大学で日本語ネイティブと同じクラスで講義を聞くための基礎的な力をつけるために、ノートの取り方と内容を短くまとめて理解する方法を学ぶ。

授業内容：

- ・講義のテープや社会問題などの解説のテープを聞いて、ノートを構造的にとる練習をした。
- ・ノートをとるためのポイントとして「キーワードを聞き取る」「記号を使う」「短く書く」「箇条書き」「ナンバリング」「ラベリング」などを扱った。
- ・わかりやすいノートの取り方と話し方の練習（グルーピングや順序だった説明など）の一環として、料理店のメニューや交通案内などをグループに分かれて考え、作成した。
- ・また、口頭表現と文章表現の違いに注目できるよう、目上の人をお願いをするさいに、口頭でお願いする文章と e-mail でお願いする文章を作り、比較した。
- ・各自自由な題でスピーチを行ったが、その原稿の作成は、T.A. にチェックしてもらうこととし、そのお願いを授業で学んだ e-mail の書き方に沿って、各自 e-mail を作成した。スピーチ原稿だけでなく e-mail の書き方についても T.A. から指導があった。
- ・まとめとして2つの発表を行った。1つは、店で会計の時にもらうレシートがどのような内容を含んで

いるのかについて、いくつかのグループに分かれ、グルーピングなどを考え、発表した。もう1つは、それぞれ自分の視聴したい映画についてインターネットなどで調べ、クラスメートに発表しておもしろさを伝えるという課題を与え、授業日程の最後にクラスメートにもっとも支持された映画を視聴した。

#### 工学系私費・日韓クラス：文章表現（担当：村上京子）

授業のねらい：大学生活で必要な基本的な日本語運用能力のうち特に文章表現能力を磨くことを目指す。文章理解および論理的な文章を書くことを学習する。

授業の内容と活動：

- ・依頼のメールの書き方：本の貸し出し、アポイントをとる、提出期限の延期など
- ・資料を読み、意見を言う、要点をまとめて書く
- ・説明の文章の書き方：コミュニケーション・ギャップのあるタスクでお互いの文章表現について検討し、改善を話し合う
- ・レポートの書き方：論文で使われる表現と話し言葉の違い、定義の仕方、引用の仕方、要約文の書き方、レポートの構成など
- ・レポートの作成と発表
- ・15回の授業を通して、書き言葉表現に慣れるために「クリティカル進化論」という話し言葉で書かれた文章を書き言葉に直す課題を与えた。

評価：授業への参加度、タスクシート、レポート、試験

工夫・反省：できるだけ学習者主導で学習活動を構成し、学習者自身が自分の問題に気づき、今後レポート等を作成する際に自らモニターできる能力をつけるように心がけた。作文に関してはピア・レスポンス方式でおたがいに書いたものを読みあって検討・改善を行ったり、読解ではコミュニケーション・ギャップをつくり、質問しあい、要点をまとめたりする工夫をした。

#### 工学系私費・日韓クラス：口頭表現（担当：鷺見幸美）

授業のねらい：口頭運用能力、及び、聞き取り能力の向上を目指す。

授業内容：

- ・「依頼する・引き受ける・断る」というテーマでロー

ルプレイ：談話構成、相手や場面によるスタイルの違いを焦点化させた。

- ・ゲストに自分の大学生活について話してもらった。その体験談を基に、スピーカーへの質問を発展させる形で、自分たちの不安・問題について話し合った。
  - ・テレビ教養番組の録画を視聴し、ノートをとる練習、聞いた内容をまとめる練習をした。
  - ・インタビュー活動：準備としては、多くの日本人に質問してみたいことを挙げ、インタビューができそうなテーマを考えた。2つのグループに分かれ、インタビューテーマを決定した。インタビューに備え、テーマに関する自分の知識を増やすための予備調査をし、グループで質問項目を作って、ロールプレイにより、インタビューの練習を行った。
- 発表の方法や質疑応答の方法も学習した。複数の日本人にインタビューをした後、録音したものをグループで互いに聞き合い、評価し合った。インタビュー結果のまとめと考察を発表し、質疑応答を行い、自己評価した。
- ・ブックレビュー：TAによる発表モデルを聞き、ブックレビューの方法を学習する。各自が自分の選んだ本を紹介し、質疑応答を行う。互いに発表を評価し合う。発表をもとに、内容について感じたことを話し合う。

評価：出席、授業内外の課題への取り組み、口頭発表によって評価した。

工夫・反省：

- ・限られた授業時間を補うため、授業外の意識的日本語使用の量を増やすような活動を取り入れた。
- モチベーションを高めること、自己修正力を養うことを目的とし、自らの日本語使用を客観視し、問

題意識を持たせるような活動を取り入れた。

- モチベーションを高めるため、学生の意思・個性を尊重するように努めた。教師主導になることを極力避け、発表モデルの提示やグループ活動の際に必要な軌道修正等には、ティーチングアシスタントを活用した。
- ・グループ内に欠席者がいることによって、授業時間内には作業が進まず、授業時間外にグループで集まらざるを得ないということがあった。また、負担が特定の個人に偏ってしまうということが見受けられた。
- ・インタビューの録音、グループ発表・個人発表の録画を生かすことができなかった。
- ・当初ブックレビューの対象を「日本語で書かれた本」としていたが、学生からの要望で母語で書かれた本や母国で上映された映画を認めることとした。「目標言語で読む量を増やす」という目的が達成できず、否定的に捉えていたが、「内容重視の真のコミュニケーションとなった」という意味ではよかった。作品の選択理由や感想に、学生の内面を垣間みることができ、日頃いかに「形式」にとらわれた授業をしているかに気づかされた。学生が「自己表現」できる授業をしたいと改めて感じている。

**1年後期**

**文系クラス：文章表現（担当：秋山 豊）**

授業のねらい：読む力、書く力の練習。脱国家的な地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げる。テーマについての理解を深める過程で読む力、書く力練習をする。最終目標は、共通テーマに精通することである。

授業の内容と活動：

◎共通テーマ：グローバリゼーション

	テーマの理解	言語技能の重点的養成			
		巨視	微視	産出	受容
1	ジハードとマックワールド	読む	精読	書く： 要旨を短文で	読む
2	・情報化の進展と社会変動				
3	・市場原理の拡大 ・市民の形骸化				
4	グローバル・キャピタル	聞く／読む	大意／選択	書く： 要旨・意見を短文で	聞く
5	・多国籍企業の市場戦略 ・多国籍企業と国家				

6	グローバルゼーションへの懸念	読む	速読： 大意／選択／ マッチング	書く／話す： 賛否両論を文章 で	読む
7	・「画一化」への不安 ・「勝ち組」「負け組」論 ・painstaking と risktaking				
8	各国事情	読む	速読： 大意／選択／ マッチング	話す／書く： 自国事情を報告	読む／聞く
9	・負の相互依存				
10	・「社会の絆」の脆弱性				
11	・問われる欲望の時代				
12	(まとめ：レポート作成をめざして)	－	－	話す： レポート構成な どを検討	聞く
13					
14					
15					

評価：授業への参加度，タスクシート，レポート  
教室活動での留意点：

- ① 一つのテーマについて理解を深めることのみを目的とする。
- ② 理解のための相互交渉への積極的な参加をお互いに心掛ける。
- ③ 授業に積極的に参加し，随時の課題をこなしていけば，レポートの作成につながるように工夫する。

#### 文系クラス：口頭表現（担当：村上京子）

授業のねらい：日本語運用能力のうち特に口頭表現能力を磨くことを目指す。口頭発表，ディスカッション，ディベートなどを通して，論理的に意見を述べることを学習する。

授業の内容と活動：

- ・ロールプレイによる口頭表現練習：現実遭遇するであろう場面を設定し，ロールプレイを行い，録音・録画資料をつかって表現を検討しあった。
- ・事実と意見の言い方・反論の仕方
- ・グループディスカッション
- ・ディベート：録画した資料と各自の評価表に基づき，検討会を数回行った。
- ・独話・提言：意見をまとめ，発表した。お互いの発表に仕方を検討した。
- ・ポートフォリオ作成・提出

評価：授業への参加度，タスクシート，ポートフォリオ，試験

工夫・反省：学習者が日常使っている口頭表現を意識化し，よりの確に論理的に表現していくために必要なことを取り上げ，ディスカッションを通して自ら改善していくことを目指した。すでにかなり自信をもっている学習者もいたが，録画し見直すことで，

気づきも多かったようで，非常に積極的に授業に参加していた。授業以外の時間帯も使って指導を希望した学習者にはフィードバックなどを行った。

#### 理系クラス：文章表現（担当：村上京子）

授業のねらい：前期に引き続き，文章理解および論理的な文章を書くことを学習する。また，語彙・表現を広げ，的確に自分の考えや気持ちを伝えられる工夫をすることを目指した。

授業の内容と活動：

- ・身の回りの語彙の収集：身体部位が含まれる語彙やオノマトペなど，日頃よく耳にするがわからない語彙が多いというので，ゲームやクイズ形式で語彙の増強を図った。
- ・資料講読：資料を読み，討論。要点をまとめて意見を書く。
- ・レポートの作成と発表：ピア・レスポンス方式で授業を行い，自分のレポートを改善し，提出。

評価：授業への参加度，タスクシート，レポート，試験

工夫・反省：できるだけ学習者主導で学習活動を構成し，学習者自身が自分の問題に気づき，今後レポート等を作成する際に自らモニターできる能力をつけるように心がけた。クラス人数が少なかったため，ペアの組み合わせや活動が固定しがちであったため，クイズやゲーム，コミュニケーション・ギャップのあるタスクを工夫した。

#### 理系クラス：口頭表現（担当：魚住友子）

授業のねらい：日本語（口頭表現）1での学習を踏まえ，大学の勉学に必要な日本語運用能力のうち，さらに，口頭表現能力，聴解能力の強化を目指す。特

に、情報をまとめて 伝達する能力、ディスカッション能力の向上を目指す。ビデオなどの視聴を通じて日本社会への理解を広げるとともに、スピーチ、討論の方法などについても学ぶ。

授業内容：

前期に引き続き、ビデオの視聴とディスカッション、ポイントを整理した話し方と口頭発表を中心に授業を行う。また、見たい映画について話し合い、最後に映画の視聴を行う。

(1) ビデオの視聴とディスカッション

前期よりは長めの科学・ドキュメンタリー・教育番組等のビデオを見て、情報を正確に聞き取る練習、情報をまとめて伝える練習を行う。また、ビデオの内容、それに関連する内容について、自分の考えをまとめ話し合う。

(2) ポイントを整理して話す練習

前期に引き続き、情報、意見を論理的で分かりやすく伝えるために、方法説明の仕方、提言・提案の仕方などについて、表現・構成を学び、ポイントを整理した話し方を練習する。発表し、相互批評を行う。その他、論点を整理して行う討論、ディベートなどの仕方も学び、練習する。

(3) 口頭発表

毎回1人がディスカッションにつながるテーマを選び、調べて発表。ポイントを整理して話すことを課題とする。レジュメも提出する。その後、質疑応答・討論、相互批評を行う。発表者は、フィードバック後、発表原稿を訂正し提出する。他の学生は、発表内容の簡単な要約とそれについての意見を提出する。

評価：期末試験（口頭発表：授業に関連のあるテーマで、自国の問題点を述べ、解決策を提案する）、小テスト、発表・宿題・課題などの平常点、授業への参加態度、出席状況

工夫・反省：前期に比べ、学生の話すスピードや明確さが大きく向上したと思う。討論やディベートなどでその力が発揮されていた。前期になかなか身に付かなかった学生にも向上の様子があがった。

**工学系国費クラス：文章表現（担当：魚住友子）**

授業のねらい：大学の勉学に必要な日本語運用能力のうち、特に文章表現能力を強化する。文章表現1での学習を踏まえて、さらに高度な読解能力やレポー

トなどを書くために必要な論理的な文章を書くための基礎力を養成する。多くの資料を自分の力で読めることを目指し、それに対する自分の考えをまとめる練習を通して、他の授業などで役に立つ文章表現能力の向上をはかる。また、レポートが書けるようになるために、レポート作成の基礎的な書き方を学ぶ。

授業内容：

主に、新聞読解および発表、レポートの書き方およびそれに関連する技術について学び、レポートの作成を行う。

(1) 新聞読解および発表（インターネット利用）

各自、インターネットで興味のある新聞記事を探し、ネット上の読解支援システムを利用して読み、分かりやすくポイントを整理して内容と意見を発表する。レジュメも提出する。その後、質疑応答・討論、相互批評を行う。発表者は関連情報も調べ、討論に備える。また、フィードバック後、発表内容をレポート形式にして提出する。その他の学生も同じ記事を読み、発表後、記事または発表内容を要約引用し意見を書いて提出する。

(2) レポートの書き方および関連技術

・図表の説明の仕方

説明の仕方・表現について学び、図表の説明文を書いて、発表する。

・引用の仕方・参考文献の書き方

・レポートの書き方

レポートの書き方の基礎的なポイントを学び（構成、資料の探し方、アウトラインの作成、見出しのつけ方、表現・見本読み他）、各自好きなテーマでレポートを作成し発表する。テーマ・目的、アウトラインも発表し、相互批評を行う。

評価：レポート（テーマ・材料は各自好きなものを選択）とその発表（レポート内容の発表、レジュメ提出）、小テスト、宿題・課題などの平常点、授業への参加態度、出席状況

工夫・反省：各種の発表や相互批評を通じて、互いに学び合う点が多々あったのではないかと思う。学生により積極性に差が見られたが、積極的に取り組んでいた学生には、向上の跡があがった。

**工学系国費クラス：口頭表現（担当：西田瑞生）**

授業のねらい：前期にひきつづき、他の人に対して話

す能力を高める。1つは、自分の専門について、話し合ったり、説明したりする能力を高めることであり、もう1つは、日常生活などおける語用論的にわかりやすい話し方を学ぶことである。

授業内容：

- ・「問い合わせをする」「道の案内をする」「宣伝をする」などの様々な場面に関して、適切ではない会話を聞き、どこが適切でないかを話し合い、よりよい会話（話し方）を考えるという練習をした。
- ・また、伝えたい内容を簡潔に話す練習として、前期と同じ内容について、どのように短くすることができるかについて考えた。
- ・専門的な内容に関しては、数回の個人面接を行った後、ハンドアウトを作り、発表する練習をした。

- ・専門的な内容の発表に関しても、わかりにくかったり魅力的でなかったりする発表を聞き、その理由を話し合い、よりよい発表を心がける練習をした。
- ・発表のとき気をつけるポイントとして、前期にもとりあげたナンバリングとラベリングや、難しい単語の説明の仕方、身近な話題との関係などを挙げた。

#### 工学系私費・日韓クラス：文章表現（担当：秋山 豊）

授業のねらい：読む力、書く力の練習。脱国家的な地球の問題群のひとつを共通テーマとして取り上げる。テーマについての理解を深める過程で読む練習、書く練習をする。最終目標は、共通テーマに精通することである。

授業の内容と活動：

◎共通テーマ：格差と成果主義

	テーマの理解	言語技能の重点的練習			
		巨 視	微 視	産 出	受 容
1	戦後日本社会の富裕層	読む	精読	書く： 要旨を短文で	読む
2	・戦前				
3	・戦後：高度成長時代 ・バブル崩壊後				
4	現代日本社会の格差	読む	精読	書く： 要旨・意見を短文で	読む
5	・「一億総中流」社会の終焉				
6	・雇用形態の変化 7				
8	成果主義	聞く／読む	速読： 大意／選択／ マッチング	書く／話す： 賛否両論を文章 で	聞く／読む
9	・多国籍企業（中国企業）の例				
10	・成果主義の功罪：事例1				
11	・成果主義の功罪：事例2				
12	・揺らぐ成果主義				
13	（まとめ：レポート作成をめざして）	－	－	書く／話す： レポート構成の 検討及び校正	－
14					
15					

評価：授業への参加度，タスクシート，レポート

教室活動での留意点：

- ① 一つのテーマについて理解を深めることのみを目的とする。
- ② 理解のための相互交渉への積極的な参加をお互いに心掛ける。
- ③ 授業に積極的に参加し、随時の課題をこなしていけば、レポートの作成につながるように工夫する。

#### 工学系私費・日韓クラス：口頭表現（担当：鷲見幸美）

授業のねらい：アカデミックな場面で必要とされる高度な口頭運用能力の向上を目指す。

授業内容：

- ・ディスカッションを行った。（録画）：司会・書記・討論者の役割を明確にした上で、それぞれの役割を交替で務める。毎週、次回のテーマを話し合いで選び出し、それぞれがディスカッションのための準備をしていく。次の週に、録画ビデオの一部を見ながら、うまくいった点・いかなかった点・その原因・



改善法を話し合う。

- ・ディベート（録画）を行った。

評価：出席、授業内外の課題への取り組み、ディスカッション、ディベートによって評価した。

工夫・反省：

- ・学生の発話量を増やすこと、自己修正力を養うことを目的とし、ディスカッションの実践と振り返りを繰り返した。しかし、教師が時間を気にするあまり、教師側から問題点を提示することが多くなってしまい、目的を果たすことができなかった。また、ディベートは、一年の総括とも言える活動であったにもかかわらず、フィードバックが非常に表面的なものとなってしまった。フィードバックのあり方は、大きな課題である。
- ・学生が興味を持って、積極的にディスカッションに参加することができるように、学生にテーマを選んでもらったが、ディスカッションには不向きなテーマもあった。
- ・同じ活動を繰り返すことにより、上達を実感してもらおうことができると考えていたが、長く続けすぎたために、学生が活動に飽きてきてしまい、逆効果だったように思う。司会と書記の分担を最初に決めてしまったために、途中で止めることができなくなってしまったが、思い切って途中で軌道修正をすべきであった。
- ・ディスカッションやディベートというものは、母語であっても好き嫌い、得手不得手のあるものである。また、受講者の中には文法力・語彙力の不足が原因で、他者に意味を伝えることに困難を感じている者もいた。学習者のバラエティを考慮して、教室活動にもバラエティを持たせるべきであった。

#### 2年前期

文系クラス：文章表現（担当：鹿島 央）

授業のねらい：昨年同期の授業と同じく、大学の勉学に必要な日本語運用能力のうち、特に文章表現能力を強化することが目的である。日本社会・日本文化に関する問題を扱った文献等を読んだり、それに対する自分の考えをまとめる練習を通して、高度な読解能力やレポートなどを書く力を養成する。最終的には学術的な文章表現の技術と能力の向上をはかる。

授業内容：

以下を授業の柱とした。

- (1) 慣用句、特定の言い回しに関するクイズを毎回5分
- (2) 日常的なメールの作成：指導教官に相談の予約をする、友達の伝言を伝える等毎回5分程度で書く課題
- (3) 現代日本社会の問題点について、新聞、雑誌などの資料を読むことで内容把握をする。トピックは「友食」「孤独力」「怒ること」「自給率」「随筆」
- (4) 書くための技術的な方法を確認：句読点、引用、書き言葉、論文で使うことば、要約など  
共通のテーマとして、「食糧問題」をとりあげ、記事を読み、それぞれの意見をまとめ、最終レポートとした。

参考資料：新聞、雑誌などの記事

浜田麻里等（1998）『論文ワークブック』くろしお出版

小林康夫、船曳建夫編（1994）『知の技法』東大出版

河野桐子他（2003）『語彙力ぐんぐん1日10分』スリーエーネットワーク

評価：毎回の授業内での書く作業の課題、参加度による。

反省点：学生が興味をもてる共通の話題で全員が書いて、意見を述べるようにもっていかうとした。しかしながら、レベル差が大きくそれほど多くの資料が読めずに終わった。基本的な書く技術については練習できたが、それ以上の発展が望めなかった。学生の一部には遅刻・欠席が多く、2年次を2時限目にするほうが効率的ではないかと思う。

#### 2年後期

文系クラス：文章表現（担当：浮葉 正親）

授業のねらい：2年前期で学んだ日本語（文章表現）をふまえ、より高度な読解力・文章表現力の向上をめざす。さまざまなテーマを扱った文献の正確な読み取りと、それを通じて日本社会の諸相に関する理解を深める。レポート及び論文の書き方をきめ細かく学習する。

授業内容：

下記の4つのテーマに即した読解用教材とそれと関連するビデオ教材を使い、学習者の関心を喚起した後、

参考文献を提示し、以下の4つのテーマから1つを選んでレポートを作成するように指示した。各テーマの読解文献と参考文献は以下の通りである。

(1) オタク文化について

(読) 『『オタク文化』に興味がありますか?』朝日新聞2005年10月8日

(参) 岡田斗司夫『オタク学入門』太田出版

(2) 韓流ブームについて

(読) 小倉紀蔵『韓国ドラマ、愛の方程式』

(参) 毛利嘉孝編『日式韓流—『冬のソナタ』と日韓大衆文化の現在』せりか書房

(3) 占いやスピリチュアル・ブームについて

(読) 「今どき信じる者はどのように救われているのか」『週刊SPA』2005年2月1日号

(参) 鈴木敦史『占いの力』洋泉社

(4) フリーターやニートの増加について

(読) 二神能基「ニートの若者と定年退職組で『も

うひとつの日本』が創れる』『日本の論点2006』文芸春秋社

(参) 工藤啓『ニート支援マニュアル』PHP

その後、戸田山和久『論文の教室』PHPから、論文とは何か、アウトラインの作成法、パラグラフ・ライティングという考え方の3箇所を取りあげ、練習問題を解きながら論文作成に必要な技法を学んだ。

工夫・反省：前半の4つのテーマに関する学習に思いのほか時間を取られ、論文作成法に十分な時間を割けなかった。アウトラインや序文については何回か添削することができ、学習者の理解度や習熟度を知ることができたが、それ以外の部分についてはあまり指導できなかったのが反省点である。各テーマの読解にあてる時間を少なくするか、あるいは一つの共通テーマを設定するかして、次年度には論文作成に重点をおきたい。